

中央アルプス全山縦走報告

2010年8月30日(水) - 9月3日(金)

M4 只左一也

8月30日：高尾→(JR)→伊那市(仮眠)

8月31日：伊那市→(タクシー)→桂木場→木曾駒ヶ岳

9月1日：木曾駒ヶ岳→宝剣岳→空木岳→摺鉢窪避難小屋

9月2日：避難小屋→南駒ヶ岳→越百山→安平路山→安平路避難小屋

9月3日：避難小屋→摺古木山→登山口→(車道)→幸助バス停→(バス)→南木曾駅→(JR)→高尾

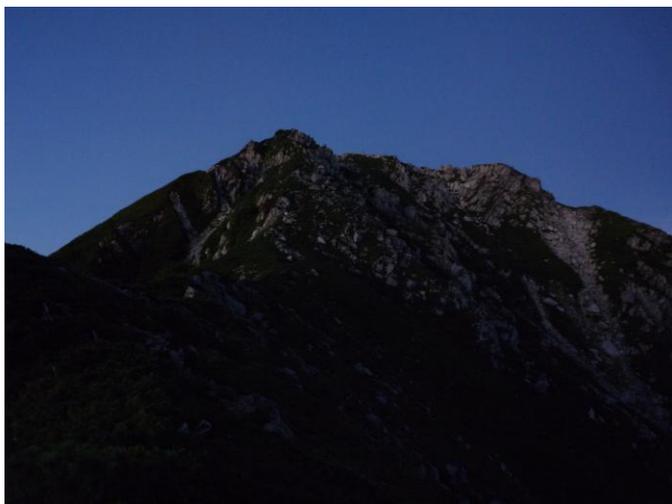
3日目 (9月2日(木))

起床	03:00
摺鉢窪避難小屋	04:30発
南駒ヶ岳	05:20着 05:30発
仙崖嶺	06:35 着/発
越百山	07:50 着08:05 発
南越百山	09:00着/発
奥念丈岳	11:00着/発
越袴山	12:20着/発
松川乗越	13:05着 13:15発
浦川山	14:10着/発
安平路山	15:40着 15:50発
水場	16:15着 16:30発
安平路避難小屋	16:45 着 (小屋泊)

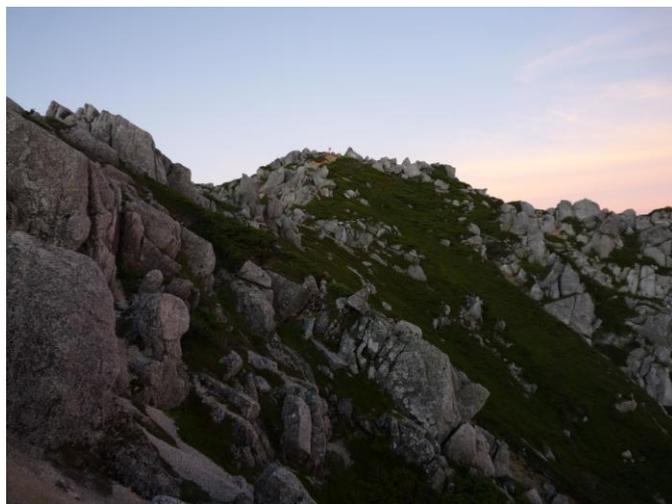
(歩行時間：約 10 時間 30 分)

この日は、藪こぎがメインの、山と高原地図では12時間以上になるこの縦走で一番きつい行程である。後半の藪の中で暗くなると困るので、3時に起床して、急いで準備をして、4時半、暗い中を出発。カールの中を歩いているうちに明るくなり、稜線に出たころには空が焼け始めた。この朝も快晴、素晴らしい天気である。南アルプス全山のシルエットが雲海に浮かんでいる。南駒ヶ岳の山頂に到着したちょうどその時、甲斐駒ヶ岳の稜線から朝日が昇った。遠く南の空では、入道雲が赤く染まっていた。この日の目的地、安平路山が遠い。前日歩いた木曾駒ヶ岳～空木岳の稜線も赤く焼けていて、空にはあかね雲がかかっている。

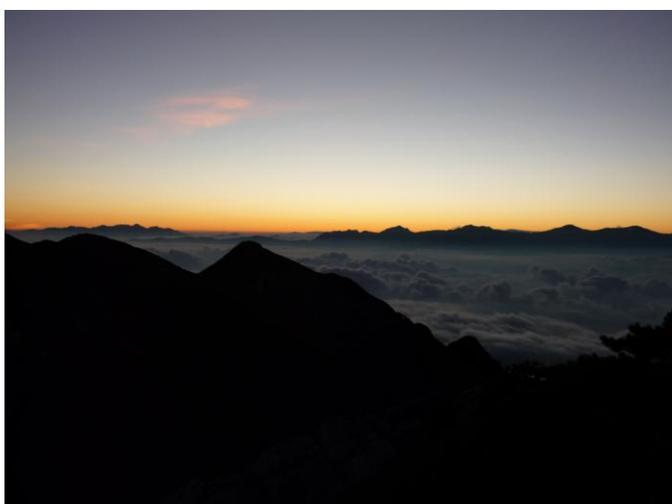
前日に劣らず美しい朝焼けで、ゆっくりしたかったのだが、この朝は長いヤブこぎを控えて少し落ち着かない気分だった。南越百山から安平路山の間は小さなテントを張る場所にさえ困るほどの笹ヤブと聞いているので、とにかく早く安平路山に着きたかった。そのような訳で、もったいなかったが、南駒ヶ岳では10分休んだだけで出発。



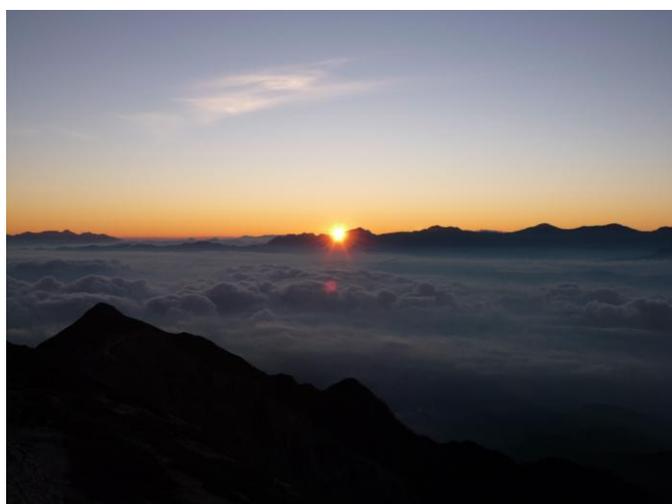
分岐点から見上げた夜明け前の南駒ヶ岳



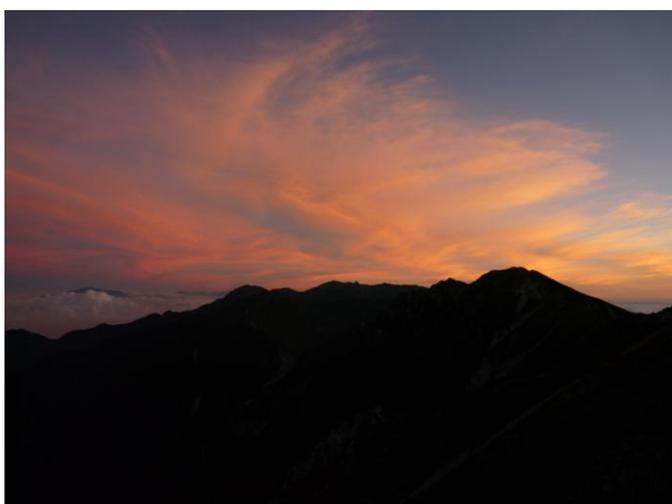
南駒ヶ岳への登り



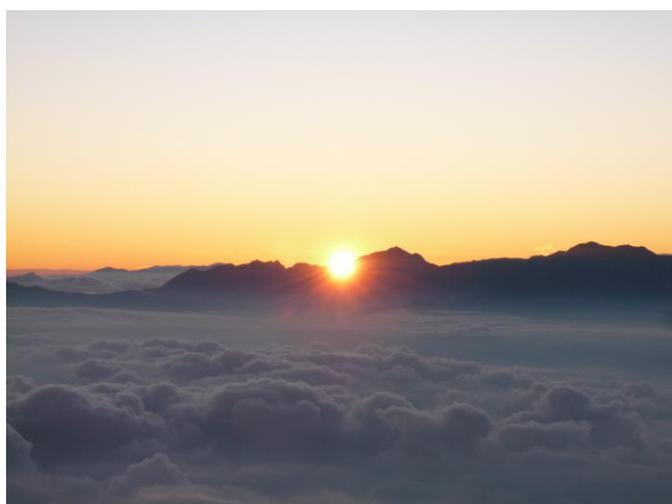
南アルプスと八ヶ岳

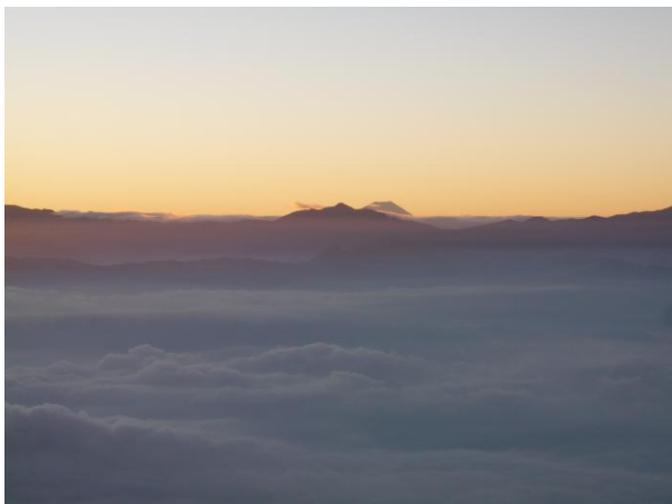


甲斐駒ヶ岳の稜線から朝日が昇る

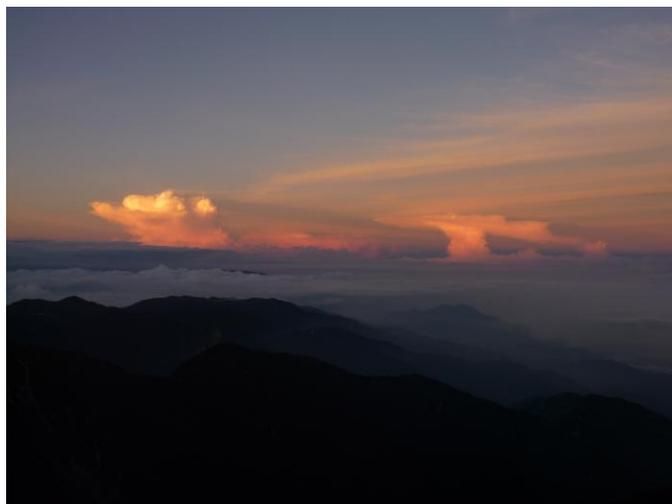


中央アルプスの北部。右端が空木岳。

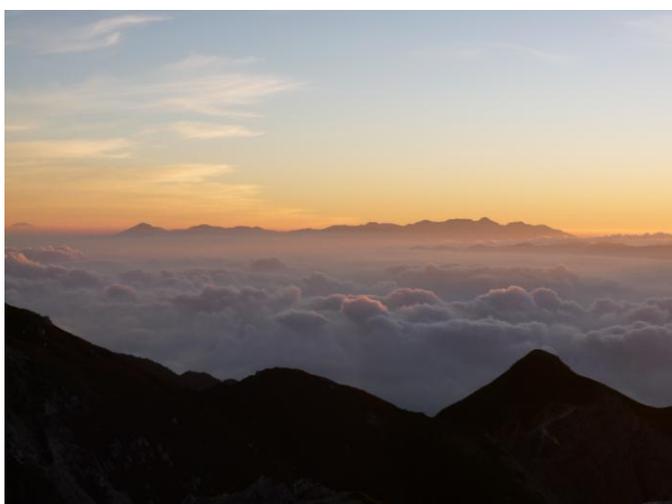




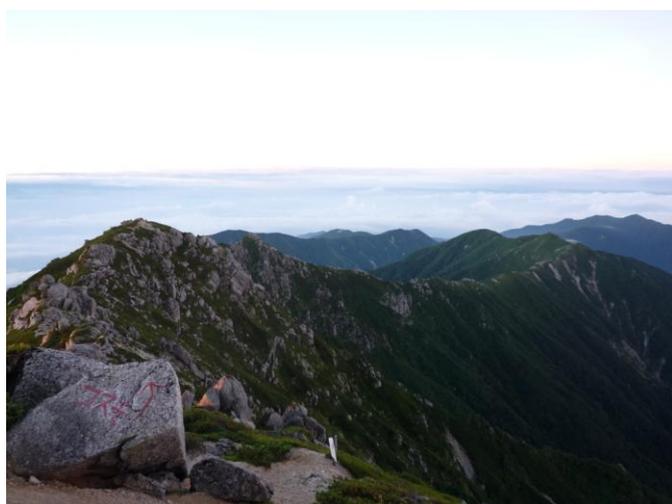
富士山と塩見岳



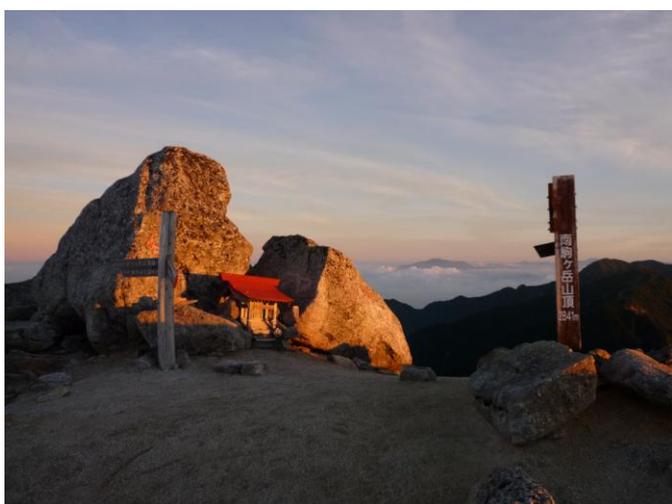
南の空に湧き立つ入道雲



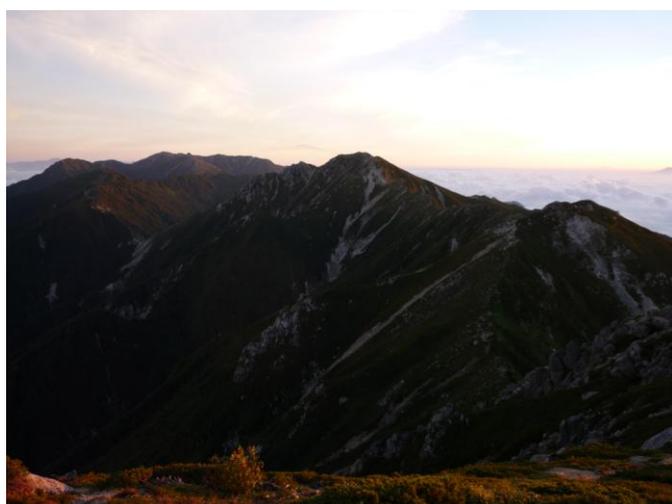
八ヶ岳連峰



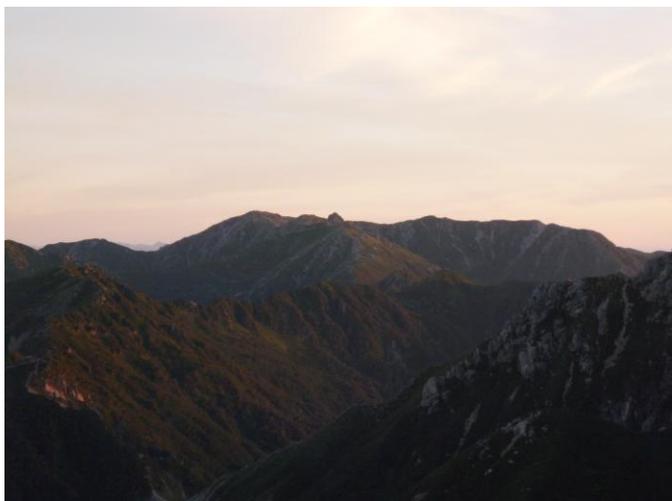
南へ続く稜線。右端が安平路山。



朝焼けの南駒ヶ岳山頂(2841m)。遠くは乗鞍岳。



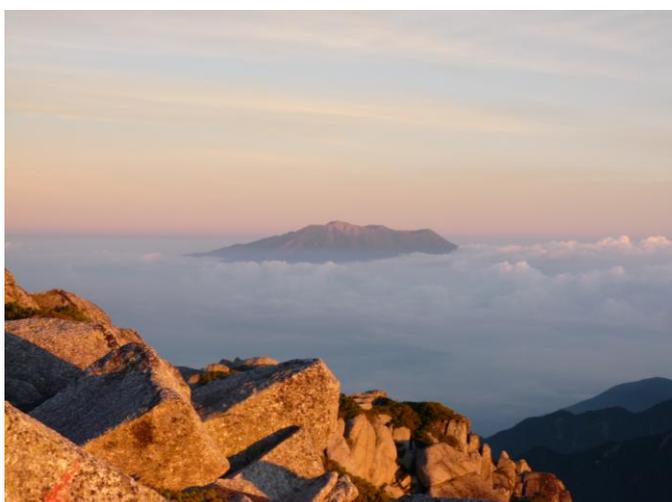
前日歩いた稜線。中央が空木岳、遠くに宝剣岳も見える。



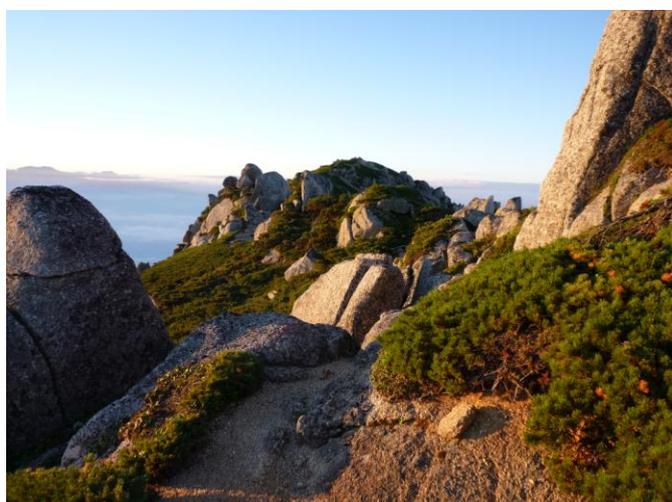
宝剣岳遠望。その左が中央アルプス最高峰の木曾駒ヶ岳。



南駒ヶ岳から先も庭園のような美しい稜線が続く



御嶽山

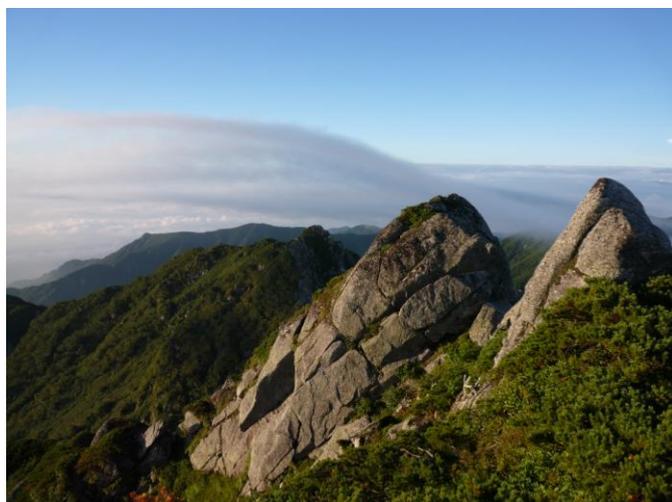
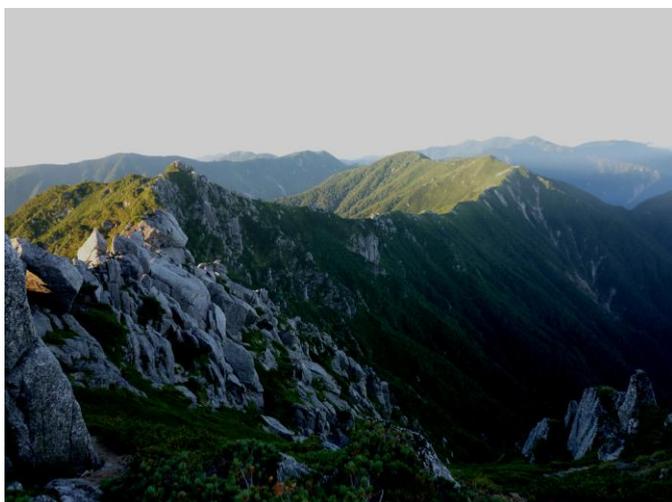


南駒ヶ岳から先も、庭園のような美しい稜線を進む。前日よりも気圧配置が不安定なのか、もう雲が湧き出してきた、6時過ぎには稜線にガスがかかり始めた。仙涯嶺という、名前の通り仙人が雲に乗って出てきそうな奇岩の林立するピークを過ぎると、なだらかな稜線となり、越百山に到着。中央アルプスの縦走は、ほとんどの人はここまでで、ここから稜線を下りてしまう。そのために、ここから先は猛烈な笹ヤブのまま取り残されている。

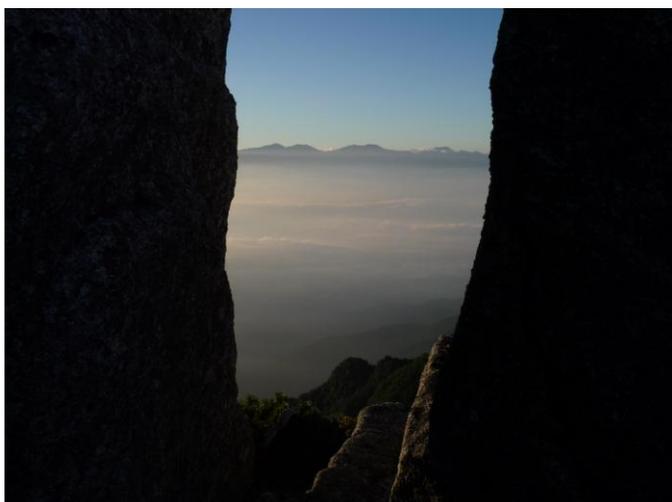




南駒ヶ岳を振り返る(左端)。右は空木岳。



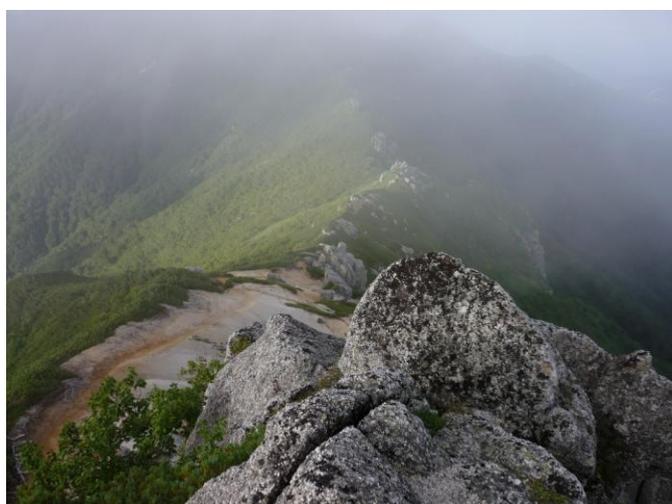
不思議な雲が稜線にかかり始めた



巨岩の間をくぐる。遠くには、荒川三山、赤石岳、聖岳が(左から)。



仙涯嶺まではアップダウンが多い



仙涯嶺から越百山へと続く尾根。



仙涯嶺の登り



仙涯嶺から先はなだらかになる。中央は越百山。



越百山山頂(2613m)



越百山の少し南、その名も南越百山までは道ははっきりしているはずなのだが、その途中、東斜面をトラバースしている道から、東の飯島町へ下る道との分岐で、間違ったトレースに入って稜線に出てしまい、ハイマツの藪になってしまった。そこで引き返せばいいのに、何を血迷ったか距離が短いからと少し強引に進んだら、猛烈な藪になって進退きわまってしまった。ここでようやく明らかにミスをしたことにはっきり認識し、一気に気力が萎えてしまった。本当の笹ヤブに入る前からこのようなミスをしているのでは、安平路山まで無事にたどり着けないのではないかと、疲れがひどかったのも手伝ってか、ひどく弱気になってしまった。しばらく引き返す気すら起こらず、体力も気力もなければ藪コギは無理だから、このまま飯島町まで下ってしまって温泉にでも入ろうかと、怠け心が大きく頭をもたげてきた。しかし、今回を逃したら、中央アルプス全山縦走のチャンスは2度とないかもしれない。頭の中でぐちゃぐちゃ考えて、その場で30分も留まってしまった。

しかし、この計画は自分で望んで立てたものだし、このような日数のかかる大きな縦走ができるなんてある意味、大変贅沢な話である。そのチャンスを逃すなんて、あまりにももったいない。ここは藪はひどいもののトレースはあるし稜線の地形もはっきりしていてこの天気ならまず大きく迷って遭難することもないし、危険なところも全くない。もともと藪コギなんて体力的にきついので気力だけの問題だけである。そう考えたら、気力が湧いてきた。

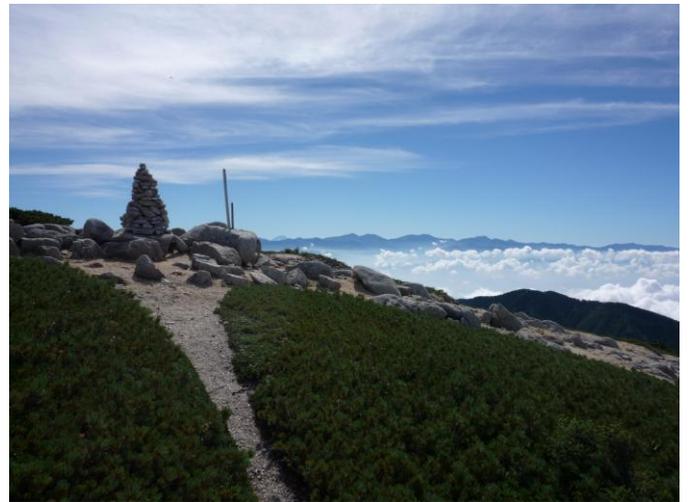
分岐まで引き返し、周囲をよく探すと、南越百山へのはっきりしたトレースが苦もなく見つかった。おそらく、多くの人がその間違いのトレースに入ってしまううちに、本当のトレースよりも太くなってしまったのだろう。分岐からわずか 10 分で南越百山の山頂に着いてしまった。白砂とハイマツの美しい山頂だった。南アルプスと御嶽山の眺めが素晴らしかった。



悩んだ末、分岐に引き返し、正しいトレースを見つけて進む。



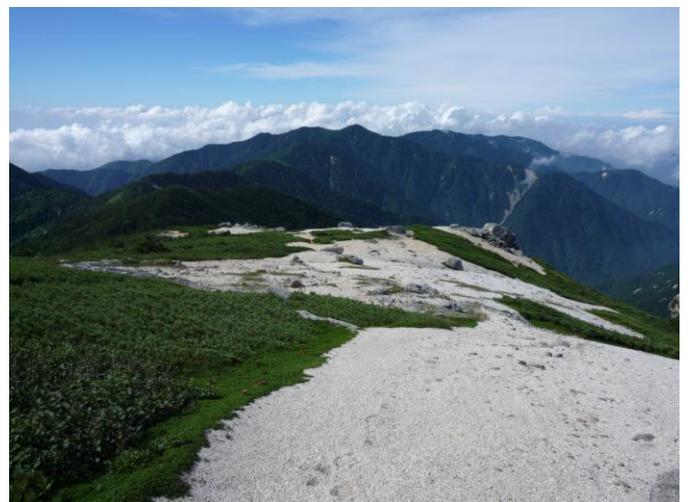
向こうの山が南越百山。近く見えるのだが…



南越百山の山頂。遠くは南アルプス南部。



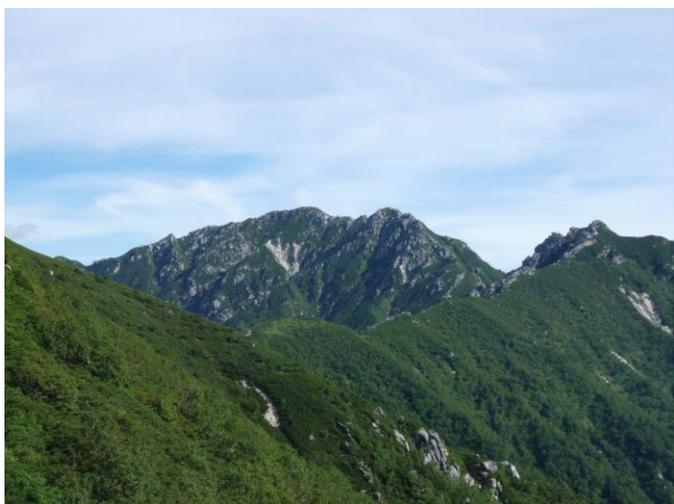
この分岐で道を間違えた。左は飯島町に下る道。本当は、左の倒れている標識から、写真上で上の方へ行かなければならないところを、写真右手(稜線)の方へ進んでしまった。



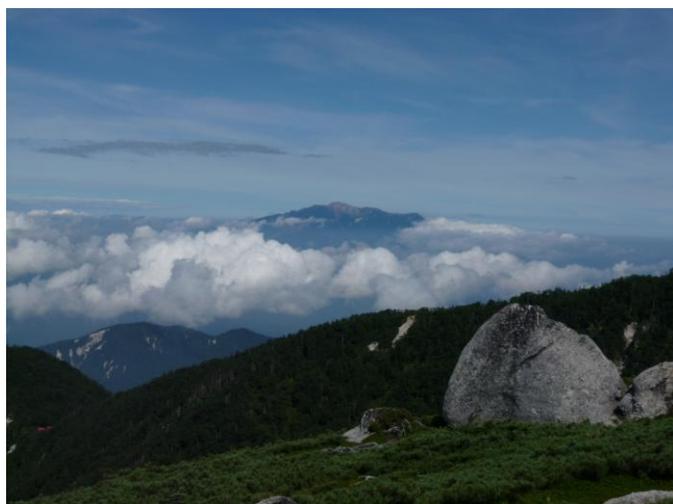
安平路山へと続く尾根。こうして見ると、安平路山はなかなか立派な山である。



後を振り返る。左が越百山、中央は南駒ヶ岳。



御嶽山



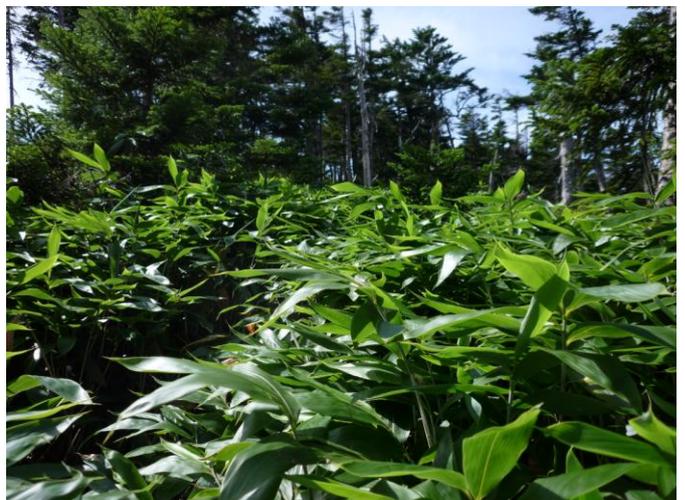
ここからいよいよ藪コギである。南へ続く稜線の先に、安平路山がどっしりと座っている。気持ちのせいか、安平路山が非常に遠くに見える。白砂の斜面を少し下ると、藪は突然始まった。ハイマツをかき分けて進むと、すぐに笹藪となる。進むにつれて、笹の背丈が高くなり、胸、そして顔の高さになった。しかし、トレースがはっきりしているし、赤テープの目印がたくさんつけてあるので、迷うことはなかった。が、標高 2400M付近から、右手のガレ場の脇の急斜面を下りきったあたりから、トレースがはっきりしなくなり始めた。間違ったトレースを、たくさんの人がそのまま進んで道が太くなってしまい、さらに次の人がその間違ったトレースに入ってしまう、という悪循環が出来てしまうのだろう。倒木で道が遮られているところでは、トレースが分かりにくくなっているところが多かった。ただ、間違えても稜線がはっきりしているのだから、稜線を進んでいけば大きな間違いになることはない。それに、豪雪地帯の根曲り竹(チシマザサ)とは違い、笹が柔らかくて強引になぎ倒しながら進んでもそれほど疲れないので、すこしでもトレースが怪しかったらすぐに稜線の一番高いところに出て、稜線上を強引に進んでいるとやがて正しいトレースに合流する。そうやって進むうちに、奥念丈岳(2303m)の山頂を通過。標識はないが、左手に念丈岳が見えるなど、地形からはっきり分かる。南越百山から 2 時間と、順調である。アブやブヨなどの虫が多いのではないかと心配していたが、虫が全然いないのはありがたかった。しかし、日差しが強く、しかも藪の中は風が通らず、蒸し暑い。



最初はハイマツの藪



すぐに笹藪に変わる



笹の背丈が次第に高くなる。このあたりは顔の高さ。



このすぐ下から藪が始まる



標高が高いためか、ところどころハイマツになる



南越百山と奥念丈岳の間の最低地点は、西側が崩れている。



奥念丈岳



奥念丈岳の山頂。標識はない。向こうに見える念丈岳へのトレース入口に印がついている。

さらに藪が濃くなって背丈を越えるようになり、トレースも分かりにくくなるが多くなった。袴腰山(2239m)はだらっとした山で、山頂が広く、トレースも分かりにくかったが、方角を検討つけて登ったら山頂付近でトレースに合流。しかし、山頂で道は直角に左に折れるのを注意しなければいけないと、確認していたのに、トレースに合流した安堵感で少し気がゆるみ、無意識にトレースを辿っていたらそのまますぐ急斜面を下り始めた。すこし惰性で下った後、ようやくこのトレースが獣道だったことに気づき、引き返そうとするが、見上げるような急斜面である。ここで、またやってはいけないことをやってしまった。左手に、尾根が見えるので、つい、横着して笹の急斜面のトラバースをしようなどという気を起こしてしまった(引き返すのが鉄則。北海道の石狩岳～沼ノ原間の根曲り廊下で、同じ失敗をして痛い目に遭ったばかりなのに…。)。大失敗だった。トラバースしながら進むと、傾斜がさらにきつくなり、笹が滑って脚で立ってられないほどになってしまった。引き返すために方向転換することすらできない。何度か滑って、両腕で笹にしがみついて、ぶら下がるような形になってしまった。さすがに、このときは焦ってしまい、クマもびっくりするような(!?) 大声で吠えてしまった。

腕力を頼りになんとか進み、傾斜が緩くなり、尾根の正しいトレースに合流したときは、ほっとしてつい声が出てしまった。

この先、さらに笹の背丈が高くなったが、逆にトレースがはっきりして迷うことはなくなった。袴腰山から下って松川乗越を越え、急斜面を登ると標識のある浦川山(2259m)に到着。まだ2時過ぎである。明るいうちに安平路山に着きそうである。



ところどころこのような標識がある



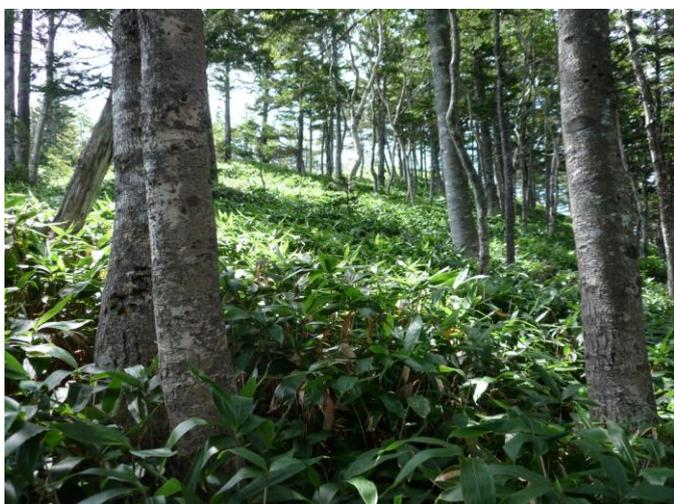
袴腰山



トレースを見失い、背丈を越える笹を強引にかきわけて進む



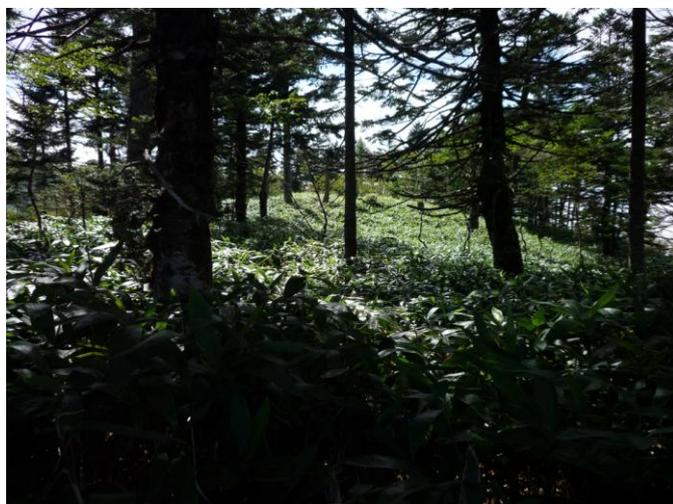
なんとか尾根に戻り、正しいトレースに合流した。向こうは浦川山。



浦川山の登り。笹ヤブは深いが、トレースははっきりしている。



広い袴腰山(2239m)の山頂。ここで道は左へ直角に折れるのだが、まっすぐに進んでしまった。



浦川山山頂直下



浦川山山頂(2259m)には標識があった

ここからもしばらくはトレースははっきりしていたが、安平路山の最後の登りになって、はっきりしなくなった。ただ、とにかく高いところに登れば間違いなく山頂に着くので、まっすぐ登り続けていると、巻くように山頂に至る正しい道に合流。そして3時40分、安平路山に無事到着。樹林に囲まれて全く展望のない山頂である。この山は、200名山に指定されていて、南側から日帰りで登りに来的人が多いようで（最近では、100名山を登り尽くして、200名山、300名山制覇を目指す人が多いらしい）、安平路山から南は道がきれいに整備されている。というわけで、ほっとして、ザックを下ろして少し休憩。ラジオの気象情報の時間が近かったが、翌日は山道は3時間ほど樹林帯の中を歩くだけだし、おそらく天気は悪くないだろうと、この日は天気図はつけないことにした。

笹がきれいに刈り払われた樹林帯の中を快適に下って行くと、左から水の音が聞こえ、水場に到着。小さなせせらぎで、この水も冷たくて旨かった。4Lほど汲んで、再びザックを担ぎ、さらに下ると、10分ほどで、目的地の安平路避難小屋に到着。ログハウスのなかなか立派な小屋だった。小屋に入り、雑記帳を見ると、前日に、私と同じコースで(ただし、もう1日かけて)全山縦走してきた高齢者の5人組が泊まったようである。しかし、この日は私一人だけだった。翌日は、長い車道歩きがあるものの(実は、これが結構厳しかった…)、先ず迷うことはないし、危ないところもないので、気楽である。途中でエスケープしようかなど迷いもしたが、計画

通り進んで良かった。まだ縦走が終わったわけではないが、充実感が湧いてきた。この日の行程を独りで静かに振り返りながら夕食を済ませ、寝袋に潜り込んだ。



安平路山山頂(2363m)に無事到着



安平路山からはこの通り、道は整備されていて歩きやすい



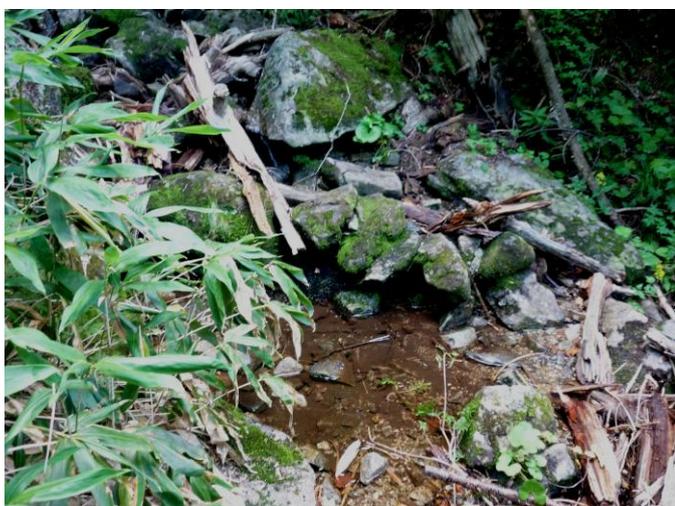
ログハウスの安平路避難小屋



途中で水場がある



入口は壊れているが、中にも戸があって二重の構造になっている



小さな沢が水場



狭いがきれいな室内